

安達元一 アート・インキュベーション シリーズ3

STEPPING INTO A WORLD

キュレーター 佐藤恭子

2023年8月22日(火)ー8月27日(日) [22-26日12-6pm | 27日(日)12-4pm]

レセプション 2023年8月24日(木)6-8pm

ギャラリー・マックス・ニューヨーク | Gallery Max New York | 552 Broadway, New York, NY
10012 | tel. 212-925-7017

アーティスト

+++

ゲスト・アーティスト:

ジョセフ・エイヤース、ジョセフ・フレイア、オラ・ロンディアック、ロイ・ルオ、マックス・藤島

本展は、エミー賞放送作家の安達元一と在ニューヨークで日本文化の紹介で知られるキュレーターの佐藤恭子が手を組んだ展覧会シリーズの第3弾で、公募して審査を通過したアーティストの作品を展示します。本シリーズでは、ジャンルや経歴にとらわれずに興味深い作品を制作し日本で活躍しているアーティストを、世界最先端のアートシーンに取り込んで、ニューヨークを拠点に世界で活動するフロントランナーたちをゲスト展示し、効果的に交流をし互いに刺激を与え合います。

日本のテレビ界で長年活躍してきた感覚で美術界を斬る。古くからの伝統を重んじる世界に、自由奔放な発想で新しい風を吹かせたい。有名な美術大学を出ていなくても、有力なギャラリーの庇護を受けていなくても、美しい作品は美しい、面白い作品は面白い。魅力的なアーティストを世界で暴れさせてみたい。そんな型破りの挑戦を今回してみたいと思います。

— 安達元一

第二次世界大戦に日本は敗れましたが、その後、多くの日本人アーティストが世界での成功を夢見てニューヨークに渡りました。戦後から80年近く経ち、業界の状況は変化しているものの、今でもその潮流は変わりありません。Stepping Into A World 展に選ばれたアーティストはニューヨークで、しかもかつてはレオ・カステリをはじめ一流画廊が軒を連ねたソーホーの空間で展示を体験し、大きな一歩を踏み出すのです。

絵画、彫刻、映像、AIといった様々な形態の作品は、日本古来の神獣など伝統的なものがテーマだったり、西洋のバスキアなどに影響を受けた作風だったり、あるいはスピリチュアルなものだったり、フェミニズムや気候問題など社会的テーマを掲げていたり和多岐に渡っています。本展を通じて今現在の日本のアーティストたちが何に関心を持ち、どんな表現をし、どのように高いテクニックを駆使しているかを総観することができます。

歴史的なマスター、国吉康雄(1910年にニューヨークへ移住)、オノヨーコ(1951年)、草間彌生(1957年)、河原温(1965年)、篠原有司男(1969年)、千住博(1993年)、村上隆(2001年)たちにもニューヨークの最初の一步、初展示はありました。本展のアーティストから、将来、そんな世界的なアーティストが生まれることを期待せずにはられません。

ニューヨークへ来て、住み始めると刻々と作風が変わります。ゲスト展示の国際的なアーティストたちも、アメリカ以外にイタリア、ウクライナ、中国の文化的な背景を持ってニューヨークで活動していますが、作品からそれぞれの文化的背景を自分のものにして作品制作をしていることが参考になるでしょう。ジョセフ・エイヤースは、イーサン・コーエン・ギャラリー(NY)のディレクターで、パーソンズ大学の准教授、本展の展示デザインに協力します。ジョセフ・ラルフ・フレイアは、名門アートクラブ、サルマガンディの広報担当で、ライブイン・マガジンを主宰し本展取材します。オラ・ロンディアックは、ウクライナで戦争が始まった際に全米主要ネットワークに連日のように出演していた有名人で、彼女の展示内容は世界に配信されます。ロイ・ルオは中国の芸術大学最高峰のCAFA(中央美術学院)美術館の副館長で主任キュレーターのチュンチェン・ワンの展示の常連です。マックス藤島はかつては電通でクリエイティブ・ディレクターを務め、UNICEF国連児童基金の日本初のファンドレイジングキャンペーンで日経広告賞(金、銅)を受賞するなど実績を持ち、今では写真家として活動し続けています。

ー 佐藤恭子

公募の審査員は、レス・ジョーンズ博士(コロンビア大学リサーチ・スカラー、キュレーター)徳光健治(タグボート代表)、花田淳(銀座花田美術代表)、安達元一(エミー賞放送作家)、佐藤恭子(NYキュレーター)が務めました。

メディアスポンサー: Livein Magazine